

新型コロナウイルス感染症

院内感染対策研修会資料

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の院内感染対策

大阪府健康医療部感染症対策課

院内感染発生時の対応

院内感染発生時の対策

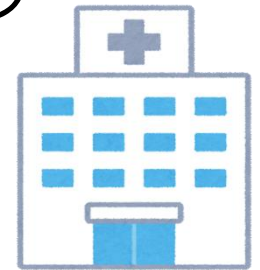
○保健所の対策

- ・患者・接触者からの聴き取り調査
→感染・曝露リスクの評価



○病院（医療機関）の対策

- ・リスク評価に基づいた濃厚接触者のリストアップ
→職員の健康観察・自宅待機



○保健所と病院が連携して対応

- ・濃厚接触者のうち、すでに症状がある人はすぐ検査実施。
→可能な限り病院での検体採取にご協力を。
- ・濃厚接触者でも症状がない人は原則健康観察で対応。
→リスク評価に基づき、必要に応じて検査実施も検討。

濃厚接触と曝露リスク

- ・「**確定患者**」：症状等から感染が疑われ、検査により新型コロナウイルス感染症と診断された患者。
- ・「**感染期間**」：新型コロナウイルス感染症を疑う症状を呈するようになる2日前から隔離が開始されるまでの間。
- ・「**濃厚接触**」：適切なPPEを着用せず約1m以内で長時間の接触があった場合。または患者の気道分泌物・体液等汚染物質に直接接触した可能性が高い場合。
- ・「**長時間**」：通常の接触では15分以上の接触でリスクがあるとされるが、診察などの接触では3分程度でもリスクがあるとされている。
- ・患者の気道吸引や気管内挿管等、**エアロゾルが発生する処置**の際に、**N95マスクを着用せず接触**した場合は、**中リスクと評価する**。

曝露リスク（マスクあり）

- ・新型コロナウイルス感染症確定患者（マスク装着）と感染期間中に長時間の濃厚接触があった場合。

接触状況	リスク	健康観察	就業制限
すべてのPPEなし	中	積極的	あり
サージカルマスクなし マスク以外のPPEは装着	中	積極的	あり
マスクあり・目の防護なし ガウンあり・手袋あり	低	自己観察	なし
マスクあり・目の防護あり ガウンなしまたは手袋なし	低	自己観察	なし
すべてのPPE装着	低	自己観察	なし

- ・就業制限については最後に曝露した日から14日間とする。
- ・患者の体位変換等で身体的接触があった場合は中リスクとして就業制限が必要となる。

曝露リスク（マスクなし）

- ・新型コロナウイルス感染症確定患者（マスクなし）と感染期間中に長時間の濃厚接触があった場合。

接触状況	リスク	健康観察	就業制限
すべてのPPEなし	高	積極的	あり
サージカルマスクなし マスク以外のPPEは装着	高	積極的	あり
マスクあり・目の防護なし ガウンあり・手袋あり	中	積極的	あり
マスクあり・目の防護あり ガウンなしまたは手袋なし	低	自己観察	なし
すべてのPPE装着	低	自己観察	なし

- ・就業制限については最後に曝露した日から14日間とする。
- ・患者の体位変換等で身体的接触があった場合は中リスクとして就業制限が必要となる。

曝露後の対応（職員の健康観察）

- ・ 積極的観察

医療機関の担当者が症状の有無を電話やメール等で確認

- ・ 自己観察

職員本人が業務開始前に症状の有無を報告

- ・ 症状が出た場合は担当者（担当部門）に電話連絡して受診
→必要に応じて検査実施

- ・ 曝露していない職員についても症状出現時に健康状態を速やかに報告できる体制や管理者が把握できる体制が必要

PPEの使用

	手袋	サージカルマスク	N95マスク	ガウン	フェイスシールド
診察(15分未満)	○	○		○	△
診察(15分以上)	○	○		○	○
呼吸器検体採取	○	○		○	○
エアロゾル手技	○		○	○	○
環境整備	△	○		△	△
リネン交換	△	○		△	△
患者搬送	△	○		△	△

○：必ず使用／△：リスクが高いとき使用

PPE不足下の感染管理 ①

○手袋

- ・手袋は単回使用が必須。ない場合は手指衛生で代用。
- ・外科的手技を除いて二重にする必要はない。

○サージカルマスク

- ・医療従事者はサージカルマスク・不織布マスクを着用。
- ・患者は布・ガーゼマスクの着用で可。
- ・患者が院内を移動する場合は不織布マスクを着用。
- ・マスクを二重に着用する必要はない。
- ・消毒・洗浄による再利用は機能低下のため推奨されない。

○N95マスク

- ・医療従事者がエアロゾル発生手技実施時のみ着用。
- ・不足時には再処理等による再利用も検討

PPE不足下の感染管理 ②

○N95マスクの再利用

- ・複数の患者を診察する場合も継続使用。
- ・名前を記載して1日1回交換し、滅菌器活用等で再利用。
- ・1人5個のマスクを配布して5日間で毎日交換・再利用。
 - * マスク表面ではウイルスが3日間しか生存できない。
- ・明らかな損傷・ゴムの劣化等が生じた際には新品と交換。
- ・アルコール消毒はフィルター機能を低下させる恐れあり。

* (参考) N95マスクの例外的取扱いについて
(厚生労働省・令和2年4月10日通知)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000621007.pdf>

PPE不足下の感染管理 ③

○ガウン

- ・患者と直接接触する際に着用。
- ・前腕が汚染した際洗浄できるよう半袖の上に着用。
- ・布製は非推奨でレインコート等撥水性の資材で代用可。
- ・リスクが低い状況等に応じて撥水性エプロンで代用可。
- ・それもない場合ゴミ袋に穴を開けて被ることで代用可。

* (参考) サージカルマスク、長袖ガウン、ゴーグル
及びフェイスシールドの例外的取扱いについて
(厚生労働省・令和2年4月14日通知)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000622132.pdf>

* (例) ガウンの作り方 (榊原記念病院監修)

<http://www.hp.heart.or.jp/topics/topics-4400/>

(ガウンの作成方法を紹介するWebサイトは多数あります)

PPE不足下の感染管理 ④

○フェイスシールド・ゴーグル

- ・ 15分間を目安にそれ以上の接触の場合は着用が推奨。
- ・ 患者が咳をしている場合は15分未満でも着用が推奨。
- ・ 目を覆えればスキーゴーグル、眼鏡でも代用可。
- ・ 再利用する場合はアルコール等で適切に消毒を行う。
- ・ クリアファイル等でフェイスシールドの自作も可。

* (例) フェイスシールドの作り方 (大阪大学山本教授監修)

<http://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/2019ncov/handai.html>

(フェイスシールドの作成方法を紹介するWebサイトは他にも多数あります)

PPE不足下の感染管理 ⑤

○検体採取時の注意

- ・ 患者が咳をせず、十分換気できる環境下では、手袋・ガウン・フェイスシールド等を着用していれば、N95ではなくサージカルマスクの着用でも鼻咽頭ぬぐい検体であれば採取は可能。
- ・ 下気道検体を採取する場合は、曝露リスクを考慮してN95マスクの着用（+PPEの着用）が推奨される。
- ・ 検体採取時に患者側方から採取したり遮蔽物を用いる等、曝露リスクを低減するための工夫は常に必要。

PPE不足下の感染管理 ⑥

○PPEの消毒

- ・ゴーグル等再利用できるPPEは使用後に消毒。
- ・消毒はアルコールまたは次亜塩素酸ナトリウムを使用。
- ・素材により一部の消毒薬や熱水消毒に適さないものあり。
(資材メーカーの推奨等に従って処理する)

○患者搬送時の注意

- ・搬送車の運転等直接患者に触れない業務ではガウンの着用は不要 (タイベック等の着用は不要)。

府内での院内感染事例の特徴

- ・ **新型コロナの受入病院・病棟ではないところで発生した。**
- ・ **新型コロナ患者という認識がない中で、いつの間にかウイルスが病院内に入り込んでいた。**
- ・ **陽性患者数が多かった病院では、探知されたときにはすでに感染が広がった後だった。**

- ・ **府内全域で新型コロナ対応に追われる中で、陽性患者を受け入れる病床が逼迫していて転院も容易ではなかった。**
- ・ **個人情報保護、風評被害、情報公開、報道対応の対応が困難だった。**

院内感染の発生に備えて

- ・ **ウイルスは相手を選ばない！**
- ・ 感染者が**他疾患**として自覚なく受診したり、職員が**市中感染**して自覚なく周囲に感染させることも十分あり得る。
- ・ 入院患者や医療職だけではなく、事務職員や出入業者も含めた**病院に出入りするすべての人の健康管理が必要**。
- ・ 一部のコロナ対応病院だけでの対応には限界があり、**すべての病院や診療所も含めてそれぞれが役割分担**を。
- ・ 院内での情報共有、情報管理、外部との連絡窓口の設定等**危機管理体制の整備・準備**を。